

## 平成29年度第1回千葉市史編さん会議議事録

- 1 日 時：平成29年10月13日（金） 午後1時35分～3時11分
- 2 場 所：千葉市立郷土博物館 講座室
- 3 出席者：（委員）  
吉田会長、本郷副会長、今井委員、天野委員  
（千葉市史編集委員代表）  
池田委員長  
（事務局）  
大崎生涯学習部長、芦田文化財課長補佐、丸島郷土博物館長、小川副館長、  
白根主査、土屋主任主事、白井（囑託）、大関（囑託）、笹川（囑託）

### 4 議 題

- (1) 『史料編近現代』調査中間報告について
- (2) 『史料編近現代』第1巻工程スケジュール（案）について
- (3) 『史料編近現代』筆写要綱（案）について
- (4) その他

### 5 議事の概要

- (1) 『史料編近現代』調査中間報告について  
『史料編近現代』調査中間報告について、史料の選定状況、補充調査の状況などを説明した。史料調査の対象や地域など、調査の方法について意見が出された。
- (2) 『史料編近現代』第1巻工程スケジュール（案）について  
第1巻刊行までの工程スケジュールについて説明した。工程スケジュールの表記について意見が出された。
- (3) 『史料編近現代』筆写要綱（案）について  
筆写要綱（案）について説明した。筆耕の作業体制について意見が出された。
- (4) その他  
講座の実施時期と参加人数について質問があった。

### 6 会議経過

午後1時35分、委員5人中4人着席。

司会（小川副館長）より、千葉市史編さん会議設置条例第5条第2項の規定により、会議が成立する旨が告げられ開会。資料の確認、事務局及び委員の紹介、大崎生涯学習部長からの挨拶を行った。

その後、設置条例第4条第2項の規定により、委員の互選で、吉田委員が千葉市史編さん会議会長に、本郷委員が副会長に選出された。吉田会長及び本郷副会長の挨拶に続いて、設置条例第5条第1項の規定により、会長が議長となって議事に入った。

## 議題1 『史料編近現代』調査中間報告について

『史料編近現代』調査中間調査について、史料の選定状況・補充調査の状況などを白根主査が説明。

### <質疑応答>

吉田会長：議題1について、市史編さん会議の中でどのように議論すべきなのか判断が難しいので、まずは池田委員長より補足説明をお願いしたい。

池田委員長：今年度より、『史料編近現代』の刊行に向けて再始動しているところである。3巻の構成で、第1巻が明治期の日清・日露戦争頃まで、第2巻が戦前・戦中まで、第3巻が戦後という内容になっている。

今年3月には、第1巻及び第2巻の構成案について話し合っ、史料選定者の割り振りを行った。ただし、これはあくまでも暫定的な素案で、この先の調査や史料選定作業の進み具合、該当史料の多寡によって変更する可能性がある。また、現在の構成案に載っているテーマでなくても、史料選定作業の中で新たにテーマを立てていくなど、さまざまな議論がこの先の調査で出てくると思う。

9月下旬の近現代史部会にて調査の中間報告が行われた。各委員の間で調査の進み方に関わりかなり差があるものの、事務局から史料目録のデータ提供などの支援を受けながら進めている状況である。

吉田会長：では、議題1について何かご質問・ご意見があればお願いしたい。

天野委員：「選定済み」というのはどういうことか。また史料によっては「選定の可能性あり」という記載になっているが、これはどういうことなのか。

池田委員長：「選定済み」というのは、掲載を前提に筆耕に回した史料のことである。

「選定の可能性あり」というのは、筆耕に回していないが、場合によっては掲載することもあり得る史料のことである。

天野委員：「選定済み」というのは、基本的に掲載される史料という認識でよいか。

池田委員長：そういうわけではない。どの自治体史もそうであるが、掲載予定の字数を超過してしまうことが多いので、まずは字数を確定したいと考えている。今回は1巻が500頁なので、掲載のためにさらに選定することが必要になってくる。

吉田会長：前提として伺いたいのだが、『史料編近現代』に携わる委員は何人くらいいるのか。また、筆耕に回すといった際に、内部でやるのか、それとも外注することなども考えているのか。作業の具体的な担い手について説明をお願いしたい。

池田委員：全部で11人の委員が携わっている。また、筆耕については原則的に外注しないというように聞いている。

事務局（白根）：今のところは原則的に内部で筆耕を行い、外注は考えていない。

吉田会長：内部で行う方法について、調査する委員が自分自身で筆耕するのか、あるいは事務局が事実上それをやらざるを得なくなるのか、その辺りがこの後具体的に進むにあたり問題になってくるのではないかと。

池田委員長：中には自分自身で筆耕してもいいという委員もいる。今は大体の委員が史料を選定し、事務局に選定した史料の筆耕をお願いする形をとっている。

吉田会長：選定した史料を事務局で筆耕するということなのか。

池田委員長：近現代史部会でも話題になっている。選定する史料の分量が多くなると考えられるので、現行の事務局で対応できるのかどうかといった懸念はある。

吉田会長：史料編なので、構成に応じて史料を並べるわけだが、それに解説や解題が付くと思う。これらはどのような形で付けていくのか。

池田委員長：まだそこまで具体的には決めていない。千葉県史の場合は史料編を理解する解題のようなものがあり、その後に史料ごとの簡単な解説がある。ところが、『史料編近現代』については、『史料編近世』のパターンを踏襲するのかどうかについても、まだ全然決まっていない。

吉田会長：『史料編近世』の場合は、最初に長い解題が付き、その後は固まりごとにも解説がつくという形だった。史料1点ずつに付いている形ではなかったと思う。

今井委員：必ずしも一点ずつに解説は付いていない。

吉田会長：史料1点ごとの解説を丁寧にするならば、選定した委員が史料を相当読み込まないと解説が書けないと思う。

池田委員長：まだそこまで話が進んでいないが、どれくらいの解説を書くかも含めて今後できる限り早く準備をしたいと思う。いずれにしても解題は書く予定である。

天野委員：史料選定リストの章節の中に、教育関係の史料がかなり多いように感じる。選定の可能性がある史料も多いようだ。千葉市教育史編纂関係史料というものの調査した史料群の一覧にあり、千葉市教育センターでは過去に『千葉市教育史』を刊行しているが、これとの兼ね合いについては検討されているのか。

池田委員長：具体的な検討はまだしていないが、市に限らず県も含め、既刊の刊行物に収録されているものは原則的には使用しないことにしている。ただし、その史料を掲載しないと構成上良くない場合などはその限りではない。例外はあるかもしれないが、原則的にはそうした形で進めている。

吉田会長：市内の学校保管文書はどのくらい調査されているのか。教育史の専門家で学校文書、特に小学校保管の史料について、明治期から戦前・戦中期までの史料を発掘して調査・研究しているグループがいるが、千葉市域ではどうか。

天野委員：詳しくはわからないが、『千葉市教育史』を編さんされた方にお聞きしたところ、かなり徹底して調べられたとのことである。学校の大規模改修をする際に大量に廃棄されてしまっていて残っていないという話はずいぶん耳にした。しかし、かなり丹念に調査されたようで、写真編では昔の通知表であったり、給食の風景であったりが掲載され、かなり充実したものになっていると思う。

池田委員長：沿革史についても特に古い学校についてはかなり調査している。『千葉県教育史』編さんの時期にかなり調査をしたようで、千葉県総合教育センターにあった史料は千葉県文書館へ移管されたが、この史料をみると千葉市内の小学校の沿革史などが収集されている。

天野委員：千葉市教育センターにも保存されている沿革史があると聞いている。

池田委員長：事務局ではそういったものをリストにしているのか。

事務局（土屋）：『千葉市教育史』の編纂関係史料については、千葉市教育センターから借用している。その中にはいろいろと編纂時の資料が残されており、かなり揃っている。学校関係については、検見川小学校旧蔵史料など、いくつかの史料

群はあるが、これまでに学校関係はほとんど収集できていないので、学校関係の史料を調査するとしたら、各家の史料群の中から『千葉市教育史』には掲載していない学校関係史料を見ていくという形になると思う。

吉田会長：特に小学校関係の史料は、学校の教育関係の史料にとどまらず、それこそ江戸時代にまでルーツがあるような村の教育機能とか、明治期になってどういう風に個々の村々が小学校を創立したのかということを含めて考えると、地域史料でもあるという点がすごく大事だと思う。そういうのも本来は市史編さん事業の調査対象に入ってくるものだろうと思う。

今井委員：選定史料リストを見た。ここで選定されている史料について、いま実際に選定をしつつある、あるいは選定の可能性がある史料等々を含めて、生浜・椎名・誉田といった地域から選定されている史料が多いという印象を受ける。その点から言うと、地域の学校がどういった風に出ていくのかといったことを含めて史料を調査する必要があるのではないかと感じている。

また、千葉市を構成している旧町村から見ると、例えば土気町は昭和44年に合併する。生浜・誉田、また犢橋・幕張などは昭和29年・30年の合併となる。ということは、それまでの時期はそれぞれの町で個別の町村運営を一生懸命していたということである。例えば生浜町役場では、役場を建てるのに町村民を含め寄附金をどうやって集めるのか相談をしていたように、それぞれの町・村意識を持って運営してきているはずである。こうした史料選定の方法で合併した旧町村がどういった風だったのかを見られることがあるのか。もう少し旧町村が合併前に一生懸命やってきたというような史料の収録はあり得ないのかと感じている。

もうひとつ気になっているのは、例えば千葉町の史料が少ないことも含めて、史料がどこまであるのかという感は否めない。商工業・漁業という項目が立っているが、近世で村役人をしているような家が、近代に入っても町村の中心となって続いている家だけしか、現状の調査では見えてこないのではないかと。商業とか工業とか経済とかの史料については、探索する場所が違うのではと思う。史料を調査・収集していくのにあたり、名主文書や行政文書ではこうした内容の史料は無いと思う。代々の名主で、その後もそれなりに発展してきた家であれば、そうした史料があって、経過を知ることにはできるかもしれないが、かなりポイントを絞ることにはなるが、今後はそういう調査をしていくことができないのかと思う。

吉田会長：それはかなり重要な指摘なのではないか。議題2のスケジュールの問題にも絡むと思うので、議題2・3あたりを事務局より一緒に説明をお願いしたい。

## 議題2 『史料編近現代』第1巻工程スケジュール(案)について

### 議題3 『史料編近現代』筆写要綱(案)について

『史料編近現代』第1巻の工程スケジュール(案)、及び『史料編近現代』の筆写要綱(案)について白根主査より説明。

<質疑応答>

吉田会長：では、議題2・議題3について、ご質問・ご意見等あればお願いしたい。  
工程スケジュールについて、第1巻の分が出ていると思うが、これを3巻分繰り返すということでもいいのか。

事務局（白根）：重なる年もある。

吉田会長：この工程表で大きな問題だと思うのは、史料の調査が入っていないということである。平成32年度までの間に史料調査が入っておらず、現状は収集した史料から選定して書くという工程表になっている。

本来第1巻工程スケジュールの前に、新たに史料調査をする期間をとるべきである。最後の年は厳しくなるが、最低でも初めの2～3年は史料の調査・収集に専念すべきではないかと思う。

事務局（土屋）：補充調査は継続していくことが前提である。3巻すべての工程スケジュールにはその旨を明記している。

本郷副会長：平成31年の夏までに掲載史料確定だと補充調査は間に合わないのではないか。また同時並行で次の巻とのスケジュールが重なるのは大変ではないか。

吉田会長：『史料編近世』の時は、基本的に1冊ずつ2～3年かけて編集するというような感じで設定していたのか。

今井委員：設定はしていなかった。ひたすら史料を収集し続けていたと記憶している。全体的には、佐倉藩領、次は生実藩領、その次は、といった形で、江戸時代後半の支配領域で調査していった結果である。ただし、調査のポイントを考えていかなければならない。先ほど商工業などの話をしたが、その他にも例えば「野」がどうなっていったのかとか、広域に及ぶ問題は近代でも多くある。農業試験場の問題には大膳野や内野が絡んでくるし、草刈堰関係などの水利組合の話は、市原市とも関連する。漁業組合と同様に、単純な区有単位ではない可能性がある。その後地下水組合に変わっていくが、その過程でもいろいろな葛藤があったはずである。この過程を区有文書だけでは見切れないので、きちんと史料を押さえてほしい。

吉田会長：『千葉市図誌』の基本的なコンセプトは、どちらかというと『史料編近世』をベースとしつつ、近現代をどう見るのかということだったと思う。用水の問題、野原の問題、海岸や道路の問題、軍用地など、かつての「野」がどう変わるのか、入会地に新しい村が出来るのかとか、近世から行く末を見るというような、そういう投げかけもあったのかと思う。『史料編近世』の村を単位としたブロック毎の体裁で『史料編近現代』ができるかということ、それは難しいが、『千葉市図誌』のようなものを少しクッションにおいて見ていくと、わりとうまく繋がりができるのではと思う。

池田委員長：地域の特徴などを、『史料編近現代』でも上手に組み込んでいけないかという話は出ている。町村合併では、問題なく合併した地域もあるし、紛糾した地域もある。紛糾した地域は、旧町村の慣習などが残っていることもあるので、そうしたことも史料編の中にうまく組み込めたらと思う。もっと大きくみれば、都市部と周辺地域でも違うので、そうした近現代における千葉市域における地域的な特徴や差異をうまく組み入れて行けたらと思う。

吉田会長：他に何かあるか。

天野委員：30年くらい前に千葉県の街道に関して調査したことがあるが、名前の無いような道を実際には多くの人々が使っている。これらはどこかの段階で調べておかないと消えてしまう。史料編というと、どうしても文書などに偏りがちであるが、平面的な広がりを含めた道の機能を調べておく必要もあるのではないかと思う。特に、大きな道ではない、小さな道を調べることが必要だろう。同時に、散在している近代以降の道標なども押さえておく必要があると思う。

今井委員：馬車組合などについても考えられるはずだ。

天野委員：空間認識にも繋げていけるのではないか。その手のものは誰も調べていないので、道路などはどんどん付け替えられてしまうようだ。例えば、この近くの「病院坂」が江戸時代に何と呼ばれていたのかは、30年くらい前の調査段階で既に誰もわからなくなってしまう。おそらく、別の名前が付いていたはずだが、次々と消えていくと思った。

吉田会長：地名や明治期の町村制まで残るような字名よりももっと細かい、小字名や小さな谷だとか、ちょっとした林の名前などが次々と失われていくのと同じ問題だと思う。それらを救うような『史料編近現代』があってもいいのかもしれない。

天野委員：難しいだろうとは思う。

池田委員長：今までそうした視点はなかった。

吉田会長：先程の草刈堰関係の話にも通じるところがある。他に何かあるか。いつも第1回目の会議では、市史研究講座とか古文書講座とか、他の議題があったように思う。今回の議題が『史料編近現代』だけになっているが、これでよいのか。

事務局（白根）：大きな時間を割いて議論していただきたい内容が『史料編近現代』であり、それに主眼を置いた議題を考えた。

吉田会長：それを危惧するところで、『史料編近現代』の関係しか議題にならないのはおかしいのではないか。今年度はどういった活動があるのか、どういう講座にどのような方が参加されたのか、といった報告をいつも受けていたと思う。市史編さん事業の活動報告が無いのはちょっと問題だと思う。それは次の会議で議題になるということなのか。

事務局（小川）：今回は『史料編近現代』の議論を中心にお願いしたいというところもある。次回の会議で、市史編さん事業の活動をまとめ、報告したいと思う。

吉田会長：口頭でも報告するということはないのか。例えば、「ちば市史編さん便り」に載っているミニ企画展は重要で、関連企画の意図なども議題になると思う。

事務局（土屋）：ミニ企画展については、昨年度に実施した「展示で古文書講座」を引き続き踏襲する形で、今回は「千葉市域の馬と牧」というテーマを設定した。牧に関する古文書の原本や絵図のパネルを見ながら、千葉市域と牧はどういった関連性を持っていたかを目的に開催している。

吉田会長：「ちば市史編さん便り」に載っている、市域の虫干し会に市史編さん事業がどういう風に関わったのか、地域との関わりも非常に重要だと思う。こうしたことも会議で取り上げるべき問題ではないのか。

天野委員：これまで千葉市の社会科教員として子どもたちに教えてきたが、最近では

公民館などで多くの歴史講座の講師を引き受けている。非常に千葉市民の知的な意欲が高く、定員20人のところ50人ぐらいはすぐ集まってしまいう状態である。

ただし、やはり最後に出てくるのは、千葉市の歴史を知りたいが良い本がないという話である。手頃な良い本がないのかという要望を聞くことが多い。

せっかく史料編を編集しているのであれば、市民向けに有償でいいので、千円ぐらいで販売できる良い本があるといいのかと思う。子供向けには副読本などがあるが、この間をつなぐようなものが何もない気がする。パンフレットのようなものだと物足りないという話も多いし、いきなり史料編を読んでもわからないという話も聞くので、市民向けのブックレットのようなものを作成してはどうか。予算をかけても回収できるのではないか。

メインは『史料編近現代』の刊行だとしても、こういう活動も市史編さん事業で並行して進めていくべきではないか。専門の先生に執筆していただけるようにすると、もっと市民の方々に市史編さん事業の意義であるとか、これまでの活動の成果を知らせることができると思う。

吉田会長：もう10年くらい前から市民向けブックレットを提案したが、なかなか市の方で予算が付かず、結局『古文書で読む千葉市の今むかし』という本を崙書房より出版した。あの本も本来は千葉市で刊行すべき冊子だったと思う。

天野委員：市民からはそうした声を毎回聞くので、手頃な何かが必要と感じている。

リーフレットに書いてある以上のことを知りたいと思うと、急に難しくなってしまうてわからないという話をよく聞く。

吉田会長：『千葉市図誌』で掲載している情報や内容はかなり重要で、貴重な市民の財産だと思う。本当はもっと分冊化して活用できないかと考えている。

天野委員：台東区などは文庫にしている。『千葉市図誌』は文庫にしてしまうと見えなくなってしまうが、いろいろな工夫をどの自治体もしているように思う。

吉田会長：『史料編近現代』について他に意見等はあるか。

池田委員長：委員は月に1～2回程度調査してもらっている。多忙で調査になかなか来ることができない委員に対しては、事務局で目録をデータ化して送ってもらっているので、自宅や所属などで目ぼしい史料を見つけてもらい、場合によってはその史料を撮影して画像データを送ってもらう、というような形で進めている。何とか心配をかけないように作業を進めていきたいと思う。

吉田会長：私の希望としては、事務局がそれだけに全面化しないように、全部筆耕を任せるとか、依頼した史料の画像データを全部送るとか、そうしたところもなるべく負担をかけないようにお願いしたい。他にも作業することはいくつかあると思うので、ぜひその辺をお願いしたい。

池田委員長：筆耕などは予算の問題もあるのかと思うが、外部に委託することが必要ではないか。

吉田会長：筆耕の外注など、そういったところは予算化されているのか。

事務局（丸島）：その辺りは実際に動き始めてみて、内部で出来る範囲であればよいが、選定で筆耕に回した史料がさらに増えて、とても手に負えないということであれば、スケジュール的に間に合わないということになってしまうと問題なので、

予算化して作業を進めたいと思う。その辺は状況を見て判断していきたいと思う。  
吉田会長：筆耕した史料をそのまま全部掲載することにはならないはずである。  
おそらく全体の半分とか半分以下の掲載になると思う。

#### 議題4 その他

##### <質疑応答>

吉田会長：議題4はその他とあるが何かあるか。また、議題1から3の内容でもよいので何かあるか。

本郷副会長：市史研究講座が毎年行われていたと思うが、今年は無いのか。

事務局（土屋）：今年は会場の改修の関係で6～7月に実施した。

吉田会長：どのくらいの参加があったのか。

事務局（土屋）：約150～180人の参加があった。

吉田会長：古文書講座も初級はもう終了していると思うが。

事務局（白根）：終了している。中級を11月から開催する。

吉田会長：他に何かあるか。特に何もなければ以上をもって議事を終了する。

小川副館長の進行により平成29年度第1回千葉市史編さん会議を終了する。

問い合わせ先 千葉市立郷土博物館市史編さん担当  
TEL 043-222-8231